

## 栽培方法

藍の栽培は比較的易しく、理科教材として扱うこともできる。生葉を使用して染色する場合は、使用できる時期が藍草の育っている時期（7～8月）に限定されるので、自分たちで育てた方が使いやすい。学校や家庭でも出来るよう、栽培方法を以下にまとめた。

準備物：藍の種、腐葉土、油粕などの肥料、かま、軍手、ホースが無い場合はじょうろ

### 蓼藍の栽培方法

目安の時期	作業・留意点
3～4月	播種：耕した畑にタネを播き、その上から土をかぶせる。手で軽く押さえ、十分に水を与える。日光の十分あたる畑で育てると、茎も太く赤みがかり葉がよく繁る。10～15日程度で発芽する。
4～5月	間引き：4～5cmに育ったら、密植した状態のところから幾つかの苗を残して抜いてしまう。抜いた苗は、別の場所に植えても良い。
5月～随時	雑草が茂ってくるので、適宜除草作業を行う。
6月	虫がつきやすいので注意する。
7～8月	生葉染めを行うのに適した時期。
9月下旬	花穂が出始める。花穂が出始めると葉は成長が悪くなり使用できなくなる。
10～12月	結実する。種子を採取し、保存する。 種は気温の高いところに置いておくと発芽しなくなる。 気温が上がる時期になったら、冷蔵庫に保存すると良い。
播種～花穂が出始めるまで	水を十分に与える。水が不足すると、葉が痛んで青くなる。葉の中のインジカンがインジゴに変化するためである。引き続き水をやると緑の葉が育つ。